

討議の柱

- ◇子どもたちの主体的な表現について
- ◇ワークシートの有効な活用について

授業者から(勇舞中学校 大瀧恭子教諭)

- ・教科書に載っている日本歌曲を積極的に歌わすことができないことが多いので、主体的に取り組ませるにはどうしたらよいかと考え、過去のレポートを参考に考えた。
- ・キーの設定に少し迷ったが、2部形式のbのメロディを素敵に歌えることがポイントだと指導してきた。
- ・「浜辺の歌」を楽しいと言って生徒が取り組めたので良かった。
- ・自分の声と向き合うきっかけになればよいと思ったが、これを追求するには時間は足りなかった。



共同研究者から(富丘中学校 高瀬啓華教諭)

- ・ワークシートの内容について最後の部分の調ごとに書かせたらよいのではないかという議論もしたが、時間的にも内容的にも難しいということになり少しざっくりした感じになった。逆に子どもたちにとってはいろいろな視点で書くことができたのでよかった。

見学者から

- ・斉唱はなかなか時間が取れない、実は楽しくないと感じている子もいる中で音域を選べるので一人一人が満足し、気持ちよく歌える授業だった。
- ・「KEY」を探すというのは、やり方がすでに「主体性」を出せる授業だった。ただ、自分の声の響きにあったKEY(表現する)を探すことができたかという部分では難しかったのではないかな。
- ・カラオケなので慣れているのか、子供たちも柔軟に対応していた。場所移動は気分転換になり良かった。
- ・ワークシートではE、F、G♭子供たちはどこまで知っているのか。-3、-2、0などだけでも良いかもしれない。「教科書と同じ」「一音低い」などあった方がわかりやすいかもしれない。また、1回目、2回目で変化した理由があっても良かった。
- ・「3段目がベストになるKEY」などに着目すると創意工夫がでてくるのではないかな。
- ・練習用のキーボードのテンポが速かった。ゆっくりだと更に曲の良さを感じながら情緒たっぷり歌えたかもしれない。更にもう一時間あればブレスの仕方などを指導し、声のパワー、腹式呼吸もさらに良くなるのではないかな。
- ・「二部形式」等の言葉が、テストのためだけではなく子どもたちから日常的にできているように感じた。
- ・3年生に進級したときに自分の声を見極め、ベストな音域を選べるようになる良い機会になると思う。歌が苦手な生徒もお互いに聴きあうことでより主体的な表現に向けての良いきっかけになることに期待したい。



午後の学習会（中学校）

①レポート発表～ 恵庭市立柏陽中学校 高張陽子先生の実践

題材 「合唱表現を楽しもう」

教材 混声三部合唱「虹」

本時は、「歌詞の内容や旋律の特徴、強弱などから、曲にあった表現を考える

ことができる」「音楽表現を工夫したことに生かすために必要な発声、呼吸法、身体の使い方を意識しながら演奏に生かすことができるようにする」という2つの観点を目標にした授業でした。歌い方シートを活用し、思いが伝わる演奏をするために、話し合い活動も取り入れられていました。文化祭での発表の様子もDVDで見ることができました。



②レポート発表～ 新篠津村立新篠津中学校 忠石尚美先生の実践

題材 「雅楽の豊かな表現を味わいながら」

教材 雅楽「越天楽」 合奏「越天楽今様」

本時は、「身近な楽器を用いて表現することにより、雅楽の特徴を理解することができる」

ことを目標にした授業でした。グループに分

かれて、リコーダーや鍵盤ハーモニカなどを使いながら取り組んでいました。ワークシートを活用し、グループごと

の話し合い活動も取り入れられていました。札幌市雅楽会の方をお招きした映像も見ることができました。



③新曲紹介 「unlimited（アンリミテッド）」「旅立ちの日に」混声四部合唱

「unlimited（アンリミテッド）」の混声四部合唱版を全員で歌いました。次年度も新曲紹介を取り入れていきたいと考えていますので、おすすめの新曲があれば音楽部会役員までお知らせいただけると嬉しいです。